

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大牟田市立駛馬北小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒836-0084

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

E-mail hayamekita-ea@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 66 名 女子 68 名 合計 134 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度＋活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

1 本校の ESD の特徴

本校校区は東側に世界文化遺産「宮原坑」「三池炭鉱専用鉄道敷」があり、鷲替え祭りで知られる駛馬天満宮がある。また、南側には諏訪川が流れている。このように、歴史や文化、自然環境を体験的に学習することができる学習環境に恵まれた地域である。本校ではこれらの学習環境を生かし、環境や文化、石炭産業に関する歴史を学習対象とした ESD を展開している。

特に、平成 25 年度から総合的な学習の時間の一環として取り組み始めた「子どもボランティアガイド」

1) では、活動を通して子どもの郷土愛や社会貢献の自覚、自尊感情、コミュニケーション能力が高まるなど、プログラムとして大きな成果をあげている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

本校はユネスコスクールとして「かかわり」を大切にしている。これは、ESD のテーマである「つながり」に繋がるものである。

主に総合的な学習の時間と生活科において学習を展開する。低学年は身近な校区とそこにかかわる人を現在の視点で学習する。中学年は、地域や大牟田市とそこにかかわる人を現在から過去を考えながら学習する。高学年は、大牟田市や他地域とそこにかかわる人を、過去から現在、そして未来の視点を考えながら学習する。このように、学習対象を空間的

に広げ、見方や考え方を時間的に広げ、それに伴ってかかわる人々を広げながら学習していく。

例えば、1で挙げた子どもボランティアガイドは、三つの対象が系統的に高まった状態での活動である。宮原坑など大牟田の世界文化遺産と、同じ構成遺産である三菱長崎造船所や八幡製鉄所を比較検討し、宮原坑の価値理解を深めている（空間的な広がり）。また、石炭産業にかかわった人々の思いや願いを知り、石炭の歴史や文化を継承する一員として自分にできることを考え、ガイドに取り組んでいる（時間的な広がり）。さらに、三池炭鉱で働いていた方や歴史を伝える活動に取り組んでいらっしゃる方と意見交換するなど、人とのかかわりを広げている（人の広がり）。

活動の広がりとして、子どもボランティアガイドについて、今後は熊本県荒尾市などの他地区の小学校と、活動の紹介やガイドについての意見交換を計画している。

3 特徴的な活動事例の紹介

(1) 単元名 「レベルアップ！ボランティアガイド」

(2) ねらい

宮原坑の役割を他県の構成遺産と比較して、「明治日本の産業革命遺産」における価値として新たに捉え直し、宮原坑は明治初期の産業の近代化において製鉄や造船を支えるエネルギー源として工業の発展を支えていたことを理解することができる。

(3) 学習展開

a 導入

ガイド活動に取り組んでいるにもかかわらず、「明治日本の産業革命遺産」についてはよく知らないという事実のずれから、他県の構成遺産を調べて世界文化遺産としての宮原坑の価値を考え直すという課題をつくった。

b 展開前段

まず、パンフレット等を基に「明治日本の産業革命遺産」を構成する他県の世界遺産について概要を調べ、整理した。次に、調べた内容を出し合っ分析し、各構成遺産はおよそ「採炭」「製鉄」「造船」にかかわるものであることを明らかにした。そして、日本の工業の近代化をもたらした「採炭」「製鉄」「造船」の関係の中における宮原坑の価値をそれぞれで考え、図化した。更に、それぞれの図を基に、見学者によりよく宮原坑の価値を伝えるための図の在り方について話し合った（写真1）。

子どもたちは自分や友だちが作成した図を比較して意味を話し合う中で、宮原坑はエネルギー源として工業の近代化の土台となっていたことを見いだした。

c 展開後段

まず、話し合ったことを基に、役割分担してガイドで用いるパネルを作成した。次に、パネルを用いて実際にガイドしたり見学者などにアドバイスをもらったりしたことを基に、パネルの修正点について話し合った。

子どもたちは、それぞれのパネルを比較したりアドバイスを申し合ったりして、図の色や形、矢印などにもっと意味をもたせることで、より見学者に宮原坑の価値が伝わることを見いだした。そして、グループで修正点を話し合っ修正した。

d 終末

修正したパネルを用いて実際にガイドを行った。子どもたちは、見学者などからガイド内容について賞賛を受け、更に今後のガイド活動への意欲を高めていた。

4 本年度の成果と課題

○ 成果 宮原坑の価値を捉え直すために、他県の構成遺産と比較したり（空間）、明治初期の時代背景を含みながら考えさせたり（時間）たことで、宮原坑の価値理解を日本の産業発展という視点で高めることができた。

○ 課題 他県の構成遺産の理解を深め、総合的に価値を捉えさせなければならない。



1) 子どもボランティアガイド



写真1 自分の図を説明する子ども

宮原坑を中心とする世界文化遺産について調べたことを基にガイド原稿をつくり、実際に見学に来られた方にガイドするプログラム

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(土日、休日にボランティアとして世界文化遺産のガイドを行う。)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

三池炭坑遺産 (万田坑と宮原坑) 弦書房 三池担当写真週-万田坑聞き書き- 三池炭坑掘り出し隊 大牟田・みやま・荒尾・南関の今昔 郷土出版社 三池炭坑関連近代化遺産紹介 DVD 企画: 大牟田市石炭産業科学館

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間を中心に、全教科・領域において、児童の興味・関心や学習の必然性に応じて横断的で段階的な学習内容（活動）となるように各学年の指導計画を工夫している。

また、校内研究の主題研究において、指導内容や指導方法に関する検証を行い、成果と課題を明らかにし、次年度の指導計画にいかしている。

また、校区内に世界文化遺産「宮原坑」があることから、それを教材としての世界遺産学習や地域とのつながりから、福祉や環境に関する学習を中心に指導内容を編成している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクール担当者として、主幹教諭教務担当と研究主任の二人を校務分掌に位置づけ、組織的に取組を推進できるような体制づくりをしている。また、校内研究の主題研究として取り組み、学年を問わず全校でESDを推進できるような環境づくりを図っている。

また、実践をもとにその成果と課題をまとめ、担当者が各種研修会や研究大会等で広く発表し、実践の見直しと改善を図っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

各種研修会や研究大会等で実践を発表し、研究協議を通して、実践の見直しと改善を図ることができている。また、学校関係者評価委員会において、取組の実際と子どもの変容（アンケート結果等）を公表している。

特に、世界文化遺産「宮原坑」における子どもボランティアガイドの取組を通して、ボランティア活動に積極的に参加する意識が向上するとともに、郷土を愛する子どもの育成を図ることができている。

課題は、学校再編による両校のこれまでの取組を融合させた新たなユネスコスクールとしての活動内容と方法の工夫と編成である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

「世界遺産学習全国サミット」や「ユネスコスクール全国大会」、「大牟田市ユネスコスクール子どもサミット」などの各種研修会において、活動成果を教師や児童が発表し、多くの教育関係者や市民に対し、学校としての特色ある取組を公表することができた。また、発表内容をまとめることで、成果と課題が明らかとなった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ユネスコスクール全国大会では、各種団体の取組が紹介され、それぞれの取組内容や特色を知ることができた。また、どのようなネットワークを構築できるかを考える機会となった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

大牟田市内外の小・中・特別支援学校とは、年1回「ユネスコスクール子どもサミット」において、その学習成果を児童・生徒が発表し、実践を交流することができている。また、教育関係者対象の研修会でも、各校の取組を紹介し合い、次の実践の参考にすることができている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

子ども自身が住んでいる地域のひと・こと・もののよさやすばらしさを改めて知り、見つめ直す機会となっている。そのことが、子どもの郷土愛を育むとともに、地域のよさやすばらしさを持続させるためには、今後、どのような視点で考え、どのような行動が必要となるのかなど、将来を見据えて考える機会を与えることにもなっている。また、その継続的な活動を通して、地域や保護者の理解や協力を得ることもできている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年4月に駿馬北小学校と駿馬南小学校の二校が学校再編され、新たに駿馬小学校が開校する。

両校のこれまでの取組をベースに、ユネスコスクールとしての活動計画を再考していきたい。

特に、駿馬北小学校は、世界文化遺産「宮原坑」など大牟田市の近代化遺産を教材として「世界遺産」、駿馬南小学校は、大牟田市の高齢化を視野に入れた「福祉」、また、両校ともに、地域の豊かな自然の恵みである諏訪川を教材にした「環境」の3つの分野を中心に活動計画を立てていきたい。